

2023（令和5）年度 神奈川県立保健福祉大学
一般選抜（後期日程）

入学者選抜

小論文試験
問題用紙

- 試験時間は90分です。
- 指示があるまでは中を見てはいけません。
- 解答はすべて解答用紙に記入してください。

問題

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

(前略)

ひとりで勝手に掃除してくれるロボット。その能力を飛躍的に向上させるなら、わたしたちの仕事をつかは奪ってしまうのではないかと心配する向きもある。しかし、もうしばらくは大丈夫なのではないかと思う。一緒に暮らしはじめてみると、その〈弱さ〉もいくつか気になるのだ。

玄関などの段差から落ちてしまうと、そこからはなかなか這い上がれない。部屋の隅にあるコード類を巻き込んでギブアップしたり、時には椅子やテーブルなどに囲まれ、その袋小路から抜けだせなくなりそうになる。「アホだなあ……」と思いつつも、そんな姿になんとなくほっとしてしまう。

こうした関わりの中で、わたしたちの心構えもわずかに変化してくる。ロボットのスイッチを入れる前に、部屋の隅のコードを束ねはじめる。ロボットの先回りをしては、床の上に乱雑に置かれたモノを取り除いたりする。いつの間にか、部屋のなかはきれいに片づいている。このロボットの意図していたことではないにせよ、周りの手助けを上手に引きだしながら、結果として「部屋のなかを掃除する」という目的を果たしてしまう。これも、まさしく〈関係論的なロボット〉^①の仲間だったのである。

先に述べたように「コードを巻き込んで、ギブアップしやすしい」というのは、一種の欠陥や欠点であり、本来は克服されるべきものだろう(じつは、いつの間にかパワーアップされた掃除ロボットの仲間は、こうした欠点を克服しつつある……。)。しかし、その見方を変えるなら、この〈弱さ〉は、「わたしたちに一緒にお掃除に参加するための余地や余白を残してくれている」ともいえるのだ。

そこで一緒にお掃除する様子を眺めてみるとおもしろい。わたしたちとロボットとは、お互いに部屋を片づける能力を競いあいながら、この掃除に参加している風ではない。どこまで手伝えはいいのか、どのような工夫をすれば、このロボットは最後まで完遂してくれるのか。そうした試行錯誤を重ねるなかで、互いの得手、不得手を特定しあう。目の前の課題に対して、その連携のあり方を探ろうとする。「相手と心をつなにする」というところまで、まだ距離はありそうだけど、ようやくその入り口に立てたような感じもするのだ。

床の上のホコリを丁寧に吸い集めるのは、ロボットの得意とするところであり、わたしたちに真似はできない。一方で、ロボットの進行を先回りしながら、椅子を並べかえ、障害物を取り除いてあげることが、わたしたちの得意とするところだろう。一緒にお掃除しながらも、互いの〈強み〉を生かしつつ、同時に互いの〈弱さ〉を補完しあってもいい。

これも多様性というのだろうか、ここでは部屋の壁、わたしたち、そして健気なお掃除ロボットという、さまざまな個性やそれぞれの技が協働しあっていて心地よい。そうした高度な関わりにあつては、ロボットはすべての能力を自らのなかに抱え込む必要はない。わたしたちもまた完全である必要はないということなのだろう。

でもどうして、このような連携プレーが可能なのだろう。一つにはこのロボットの性格から来るものなのではないかと思う。ぶつかるのを知ってか識らずか、部屋の壁に果敢に突き進んでいく。コードに巻きつい

でも、そこからなかなか離れようとはせず、遂にはギブアップ……。そんな失敗をなんとかくりかえしても、懲りることがない。

そのようなロボットのあつけらんとした振る舞いに対して、「どうして壁にぶつかると知っていて、ぶつかるのだろうか。アホだなあ……」^②と思いつつも、いつの間にか応援してしまう。

(中略) わたしたちの共同行為を生みだすためのポイントは、自らの状況を相手からも参照可能なように表示しておくことである。「いま、どんなことをしようとしているのか」「どんなことに困っているのか」、そうした〈弱さ〉を隠さず、ためらうことなく開示しておくことで、お掃除ロボットは周りの手助けを上手に引きだしているようなのである。

もう一つのポイントは、相手に対する〈敬意〉や〈信頼〉のようなものではないだろうか。お互いの〈弱い〉ところを開示しあい、そして補いあう。一方で、その〈強み〉を称えあってもいい。このお掃除ロボットは相手を信頼してなのか、その部屋の壁になんのためらいもなく、委ねることをする。一方で、わたしたちも「へー、こんなところのホコリを丹念に吸い集めてしまうわけ?」「すごい、これには敵わないなあ……」というわけで、「ここはロボットに任せておこう!」ということを徹底させている。

人とロボットとの共生という言葉があるけれど、自らをわきまえたお掃除ロボットは、わたしたちとのあいだで、持ちつ持たれつという共生をちゃっかり成功させているようなのである。

(後略)

出典…岡田美智男『〈弱いロボット〉の思考 わたし・身体・コミュニケーション』

(第8章〈対峙しあう関係〉から〈並ぶ関係へ〉) 講談社現代新書、二〇一二年四頁、二〇一七年

問1 傍線部①「関係論的なロボット」とは、どのようなロボットであるか。本文中における意味を、日本語七〇文字以内で説明しなさい。

問2 傍線部②「共同行為を生みだすためのポイント」として、筆者はどのようなことを挙げているか。筆者の挙げているポイントがどのように共同行為とつながるかを明確にしなから、日本語一五〇文字以内で述べなさい。

問3 異なる個性や特性を持つもの同士が共生していくうえで大切な要素はなにか、本文中における筆者の主張を踏まえて、あなたが大切だと考える要素とその理由を日本語七〇〇文字以上八〇〇文字以内で述べなさい(字数は厳守すること)。

